

山形大学

蔵王協議会だより

第16号

関連病院会の声

明石医院長
大島医院長

伊藤 義彦
安達 真人

指導医の声

第一内科
病理部

井上 純人
大竹 浩也

研修医の声

野間未知多・杉山恵一郎

- ▶資料1 平成23年度研修病院のマッチング状況
- ▶資料2 平成23年度研修医マッチングの結果
- ▶資料3 平成24年度卒後臨床研修プログラム・2年次
- ▶資料4 後期研修医の動向



セレンデピティーについて

明石医院 院長 伊藤 義彦

私の好きな言葉にセレンデピティーがあります。

初めて耳にしたのは、13年前に行われた日本皮膚科学会で前東北大学教授の田上先生の特別講演の時であり大変感銘を受けました。

セレンデピティーとは、英語で「偶然なる発見」という意味で主に自然科学の分野で使われてきましたが現在では他の分野でも多く使われているようです。

ベルシャのおとぎ話に「セレンティプの三人の王子達」というお話があります。セレンティプとは、かつてのセイロンで現在のスリランカの古い呼び方で、3人の王子達が旅をしながら偶然にもいろいろな発見をするという物語です。

セレンデピティーにふさわしい偉大な発見としては、ペニシリンの発見、マジックテープの発見、そして現在、山形市の蔵王成沢に住んでおられます世界的な免疫学者である石坂公成先生のIgEの発見であります。

石坂先生は奥様と共に歩んでこられた研究生活を振り返って執筆なされた著書「我々の歩いてきた道」にも、IgEの発見はセレンデピティーであったと述べられておられます。

これら、偶然の発見に巡りあえた方々に共通しておりますことは、常日頃よりたゆまざる研鑽を続け、そして旺盛な好奇心と研ぎ澄まされた感受性を持っている方々です。つまりセレンデピティーは、誰にでも訪れるものではなく、自分の職業や生活に魂を入れて打ち込んでいる人へのみ訪れるということです。

自然科学の分野だけでなくあらゆる分野で成功を収めている人達は、失敗を足場にして輝かしい成功を収めておりますが、失敗をおこさないということではなく、どうしたらその失敗をよりよいものにすることができるのかという事を即

座に判断できる人達であると思います。

我々は、日常の生活や職業において、セレンデピティーつまり「偶然なる発見」を見逃すことがないように謙虚にそしてひたむきに研鑽を続けていく努力が必要かと思えます。

私は朝礼の際に度々セレンデピティーの話をしします。ややもすると日常業務におけるマンネリ化やケアレスミステークの発生を防ぐ為です。私自身及びスタッフにも大分浸透してきているように思われます。



地域に信頼される 医療機関を目指して

医療法人社団悠愛会 大島医院 院長 安達 真人

大島扶美悠愛会理事長から院長を拝命しています安達と申します。この度は医院紹介の機会を頂き、山形大学蔵王協議会・広報部長の根本教授に心より御礼申し上げます。

大島医院は故大島義彦(前山形大学医学部教授)、扶美両先生により開院されました。すでに当時の面影はありませんが、山形大学医学部の北に近接したピンクの建物として生まれ変わっています。平成17年12月に新築され、1-2階が診療部、3階が事務部で構成されています。

診療部には内科(五十嵐仁子)、神経内科(大島扶美)、整形外科(塩見明)、放射線科(安達真人)があり、リハビリテーションが併設されています。大島は神経疾患・認知症を専門とし、五十嵐は糖尿病・消化器・呼吸器疾患、塩見は関節リウマチを始め整形全般を担当しています。これまでも近隣の方々に愛されてきましたが、新設後は介護・老人施設にも広く利用されるようになってきました。特に近年は、認知症、うつ症状、各種消化器疾患、肺炎などの呼吸器疾患、脊椎の圧迫骨折など高齢化を反映した疾患が増加しており、本院への期待は高まっていると感じています。

私が担当している放射線科(放射線診断)はコンピューター断層像(CT)、磁気共鳴画像(MRI)が完備されており、院内の患者はもとより大学病院を含め近隣の診療所から多くの症例をご紹介頂いております。私は大学病院で神経放射線診断を専門にしておりましたので、これまで脳神経外科、神経内科、精神科、眼科、耳鼻科から中枢神経疾患を中心に利用して頂いてきましたが、最近は整形外科、婦人科、消化器内科、呼吸器内科、皮膚科、歯科口腔外科など、ほぼ全科に渡ってご紹介頂くようになり深く感謝しております。

当院が心がけていることは、とにかく質にこだわることです。個人的には多少検査件数に影響がでて、満足できる

と判断するまで必要と感じる撮像を追加することにしていきます。そのためには、やはり新しい情報を取り入れることが重要で、常に研究、論文は念頭に置くことが大事だと感じています。

最近国の方針もあり、ITを利用した医療システムの利用が推奨されています。確かに、遠隔画像診断や治療に大きなメリットがあることは否定しませんが、実際の医療現場にいてモニターの向こうはやはり信用できる人物であってほしいものです。普段はITで情報交換していても、いざという時は電話で肉声を聞き、実際に会いにいける環境であることが望ましいと思います。その意味で本院は地理的にも恵まれ、直接お会いできる環境は大きな利点です。将来への期待として、この環境を背景に蔵王協議会関連医院として大学病院とのさらなる緊密な情報交換、研究活動ができればとても幸運なことです。また、最近は開業されている先生方にとっても、新しい撮像法など理解に苦しむことがあると思われます。画像がなくても電話でご相談できることもあると思いますので、気軽に連絡して頂けるような環境を築けたら大島医院にとっても大きな一歩だと考えています。

最後に、たとえば見た目は質素で小さい店でも、おいしいラーメン屋さんの前にはいつも常連客がいっぱいです。大島医院もこのようにありたいと願い、丁寧で質の高い医療を提供できるように精進して参りたいと思います。

より良い研修環境を 作りましょう

現在第一内科（循環・呼吸・腎臓膠原病内科）で研修医及び学生の指導担当をしております。自分が学生時代に恩師から教わったことですが、「学生に教育をして、医療が伝わっていけば、自分のやりたい医療を100倍にできる」という話を聞いて以来、医療においても教育というものは重要であると思ってきました。現在教育を行う立場としてその言葉の重みを実感しております。

山形大学医学部附属病院は、学生が臨床実習を行うにも研修医が臨床研修を行うにも理想的な環境があると考えております。病院には各専門の医師がおり、常に専門の垣根なく議論をしながら医療を進めていくプロセスに参加することができます。また今年度からは研修医だけでなく学生も県内の関連病院で研修を行うことが可能となりました。地域医療の実践を学べる大きな機会と考えております。大学病院臨床研修センターでは学生や研修医の研修だけでなく、生活面、待遇面など様々な要望を汲み上げる仕組みを作り、多くの成果を上げております。



第一内科
井上 純人

研修医の皆さんにオリエンテーションをする機会があった際、話をしたことがあるのですが、研修を行う上で是非取り組んでほしいことを挙げます。

See one・・・多くの見聞によって多くの知識は得られます。上級医の医療技術を見るだけでなく、多くの文献や学会を見ることも有効でしょう。

Do one・・・見ているだけでなく自分がやらなければ、決して自分のものにはなりません。

Teach one・・・昨日習ったことでも誰かに教えることで自分のものになるでしょう。

Discuss one・・・主治医である以上患者に対する責任を持ちます。積極的に議論することは重要と考えます。

現在大学で学ぶ学生や、研修医の皆さんには、学術や生活のことなど、より良い研修環境は誰かに与えられるものではなく、皆さんの取り組みによっても大きく変わっていくものであることをぜひ知って頂ければと思います。



臨床研修について思うこと

— 病理医の立場から —

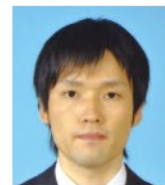


病理部
大竹 浩也

現在の臨床研修制度では CPC研修(CPCにおける症例の提示とレポートの提出)が必修とされており、本学では病理学教室(病理診断学講座および人体病理学講座)のスタッフが指導にあたっています。CPCは臨床診断や治療が適切だったのかを検討する貴重な機会です。研修医は担当した症例の臓器および組織標本を観察し、患者さんの体にどのような変化が生じていたのか、理学所見や臨床検査、画像所見がどのような病理学的変化を反映していたのかについて自分の目で確認することになり、CPC研修は臨床研修の中で重要な位置を占めると考えています。この研修は研修医に病理診断業務を知ってもらうよい機会でもあります。病理診断を依頼する際に提供すべき適切な情報や、診断報告書に込められたメッセージについての理解を深めてもらえればと思います。研修医の方々には、CPC研修が終わってからも、病理学教室に頻りに足を運んでくれることを望みます。担当医と病理医の情報交換は正確で迅速な診断に大いに役立ちますし、臨床医にとっては、病理医とともに標本を見ること

で自らが担当する疾患の理解が深まるでしょう。また、これを機会に病理医を志す人が少しでも増えてくれるとうれしく思います。全国の病理専門医は2,000名に満たず(ちなみに山形県は20名)、その平均年齢は50代に達しています。現在の病理医不足にこれから拍車がかかることは確実です。病理専門医を取得するには5年以上の病理診断経験と40体以上の病理解剖が要求されますが、本学では十分な経験を積むことができます。ちなみに、本学では初期研修の課程で病理診断科を選択することも可能です。最後になりますが、研修医の先生方が充実した研修生活を過ごせるよう、これからもサポートしていきたいと考えています。

たくさんのメンターがいる病院



研修医
野間 未知多

私の研修医生活で、全国の研修医に自慢できる誇り高い財産があります。それはメンター<Mentor>です。「メンターって何ですか?」

初めて耳にされた方もいらっしゃるのではないかと思いますので、簡潔に説明させていただきますと、<メンター=恩師>です。

私の研修医生活は第1内科循環器科で幕開けとなり、早速、メンターに出会いました。このメンターは緊急入院もコンサルトも院生指導も研修医勉強会も、全て快く引き受け、請け負った仕事を全力で疾風の如く成し遂げてしまうのです。

また、そんなメンターの下で育ってきた若手医師の先輩方は、やはり仕事が早く、指導熱心です。そして、疲れがたまるときは飲み会のフォローだって忘れない、後輩想いの兄貴分<=ジュニア・メンター>なのです。循環器科ローテーションを終えた後も、そのメンターと兄貴達との繋がりは絶えず、またたくさんの新たな

メンターと兄貴達と出会いました。いつも私の将来を気にかけて、手助けのためには貴重な時間をいとわず割いて下さるメンター。いつもつまずいたときには横で見守り、立ち上がるまで楫を飛ばしてくれる兄貴達。その思いやりと仕事振りをみるや、私の目は点となり、鼻を明かすのです。

私の理想は、いつか私も誰かの兄貴となり、誰かのメンターになることです。また、これからも患者さんのために病棟を駆けずり回り、文献を読みあさります。そして、患者さんに声をかけられます。

患者『先生、本当によく頑張るなあ。いい病院で修業を積んだんだなあ。』

私「そうなんです、とてもいい病院で育ちました。たくさんのメンターがいましたから。」

患者『へえ、メンターって何だい?』

私「ええ、それはですね…。」

いつか、こんな会話をする日がやってくるでしょうか。



研修を振り返って

研修医
杉山 恵一郎

「国家試験無事終わりました」という後輩のメールを見て、研修医になってもうすぐ1年経つということを実感しました。仕事に慣れず学生実習の延長であった昨年の春に比べると、少しは“医者らしく”なれたと思う反面、決して教科書やマニュアル通りにはならない臨床の現場で毎日右往左往し、指導医の先生方やスタッフの皆さんにご迷惑おかけしながら日々精進しています。

1年目は志望科である小児科、必修科である内科、救急・麻酔で研修させていただきました。志望科以外は約1ヶ月単位でローテートするため、診療グループごとに必要な知識・手技などを覚えていくのに苦労することもありましたが、短い期間の中でも時に熱く、時に厳しく、そして楽しくご指導してくださり、志望科の

研修だけでは得難い様々な経験をさせていただきました。

大学病院で研修するメリットとして各専門の指導医の先生方が多いことが挙げられると思います。合併症を多く抱える患者さんが多い大学病院では、複数の診療科が治療に関わることが多く、合同カンファレンスにおけるディスカッションでは、1症例から非常に多くのことを学ばせていただきました。また、プレゼンテーションや学会、論文発表、学生を指導する機会が多く、臨床で得た知識・経験を系統的に整理することができたこともメリットの1つと思われます。

2年目以降も日々の業務に追われるだけではなく、1歩1歩医師として着実に成長できるようこれからも研修に励んでいきたいと思っています。

資料1

平成23年度

東北地区大学病院及び山形県内研修病院のマッチング状況

病 院 名	定 員	マッチ者	空き定員	定員充足率
弘前大学医学部附属病院	43	11	32	0.26
岩手医科大学附属病院	35	8	27	0.23
東北大学病院	34	14	20	0.41
秋田大学医学部附属病院	34	18	16	0.53
山形大学医学部附属病院	49	33	16	0.67
福島県立医科大学附属病院	43	14	29	0.33
山形大学医学部附属病院	49	33	16	0.67
山形県立中央病院	15	8	7	0.53
山形市立病院済生館	10	8	2	0.80
山形済生病院	8	1	7	0.13
公立置賜総合病院	10	5	5	0.50
米沢市立病院	5	3	2	0.60
山形県立新庄病院	4	0	4	0.00
鶴岡市立荘内病院	5	1	4	0.20
日本海総合病院	9	4	5	0.44
医療法人社団山形愛心会 庄内余目病院	4	2	2	0.50
山形徳州会病院	2	0	2	0.00
山 形 県 合 計	121	65	56	0.54

(参考) 22年度マッチング結果

病 院 名	定 員	マッチ者	空き定員	定員充足率
山形大学医学部附属病院	50	28	22	0.56
山形県立中央病院	15	12	3	0.80
山形市立病院済生館	10	7	3	0.70
山形済生病院	8	6	2	0.75
公立置賜総合病院	9	0	9	0.00
米沢市立病院	5	0	5	0.00
山形県立新庄病院	4	2	2	0.50
鶴岡市立荘内病院	5	1	4	0.20
日本海総合病院	10	10	0	1.00
医療法人社団山形愛心会 庄内余目病院	4	0	4	0.00
山形徳州会病院	2	0	2	0.00
山 形 県 合 計	122	66	56	0.54

資料2 研修医マッチングの結果（参加病院の所在地による全国分布）

都道府県	平成23年		平成22年		マッチ者数増減 ①-②
	募集定員	マッチ者数①	募集定員	マッチ者数①	
北海道	412	279	429	257	22
青森県	128	69	130	69	0
岩手県	126	67	119	70	△3
宮城県	170	98	152	110	△12
秋田県	123	67	122	51	16
山形県	121	65	122	66	△1
福島県	146	61	149	78	△17
茨城県	184	105	185	114	△9
栃木県	163	110	180	115	△5
群馬県	121	88	122	92	△4
埼玉県	377	203	380	223	△20
千葉県	383	300	388	292	8
東京都	1,502	1,369	1,516	1,409	△40
神奈川県	661	577	687	579	△2
新潟県	175	81	184	88	△7
富山県	100	62	102	46	16
石川県	173	116	165	106	10
福井県	98	59	98	57	2
山梨県	78	45	87	36	9
長野県	157	115	157	112	3
岐阜県	141	112	143	108	4
静岡県	234	157	237	158	△1
愛知県	570	460	578	489	△29
三重県	128	93	129	93	0
滋賀県	103	72	106	75	△3
京都府	288	244	291	265	△21
大阪府	678	612	685	624	△12
兵庫県	381	335	387	343	△8
奈良県	101	94	101	76	18
和歌山県	99	80	98	84	△4
鳥取県	74	38	69	44	△6
島根県	97	50	96	45	5
岡山県	208	152	210	187	△35
広島県	184	142	187	153	△11
山口県	116	77	117	85	△8
徳島県	91	59	94	55	4
香川県	100	64	103	52	12
愛媛県	114	72	113	79	△7
高知県	94	55	94	50	5
福岡県	484	439	514	438	1
佐賀県	85	52	84	38	14
長崎県	153	95	153	89	6
熊本県	119	113	120	98	15
大分県	109	50	108	65	△15
宮崎県	81	61	75	30	31
鹿児島県	160	97	165	73	24
沖縄県	160	140	161	132	8
計	10,550	7,951	10,692	7,998	△47

資料3) 平成23年度 卒後臨床研修プログラム・2年次

番号	氏名	平成23年度・2年次											
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
A-1	阿部尚弘	二外科		小国町立病院		小児科	精神科	済生病院(産婦人科)					
A-2	阿部祐紀	白鷹町立病院	二外科	精神科	一内科			市立済生館(一内科)					
A-3	遠藤さやか	三内科			高島病院	精神科	産婦人科	小児科			放射線科		
A-4	小野崇	米沢市立(一外科)	米沢市立(産婦)	朝日町立病院	放射線科								
A-5	小野里祐介	二内科			精神科	小児科	小国町立病院	県立中央(救急)					
A-6	勝見修一郎	公立置賜総合病院(救急)			公立置賜総合病院(二内科)								
A-7	亀井啓太	一内科			精神科	一外科	最上町立病院	日本海総合病院(一内科・腎)					
A-8	栗原一貴	麻酔科			朝日町立病院	二外科	麻酔科	麻酔科					
A-9	須貝孝幸	最上町立病院	二外科	小児科	石巻赤十字病院(一内科・循環器)								
A-10	鈴木淳也	米沢市立(糖尿病・内分泌内科・神経内科)		米沢(消化器内科)	精神科			秋野病院(精神)					
A-11	須田真弓	日本海総合病院(産婦人科)			小児科	朝日町立病院	一外科	産婦人科					
A-12	高橋良輔	公立置賜総合病院(一外科)			精神科	朝日町立病院	一外科						
A-13	豊島拓	一内科			日本海総合病院(一内科)								
A-14	根元琢磨	一内科			県立中央(脳外科)						県立新庄病院(一内科)		
A-15	船田敏子	産婦人科			耳鼻科			朝日町立病院	脳外科	精神科	小児科		
A-16	松本麻実	一内科			一外科	精神科	長井病院	公立置賜総合病院(一内科)					
A-17	宮澤弘哲	小国町立病院	一外科	小児科	二内科			日本海総合病院(二内科)					
A-18	武藤鮎美	米沢市立(救急)			済生病院(外科)						救急		
A-19	村上敬憲	精神科	産婦人科	小国町立病院	眼科								
A-20	矢作有希恵	産婦人科	最上町立病院	精神科	東北中央(二内)								
A-21	和田佳子	精神科	小児科	最上町立病院	公立置賜総合病院(二内科)								
A-22	渡邊具史	麻酔科			麻酔	小国町立病院	二外科	麻酔科					
小児科 重点-1	杉山恵一郎	朝日町立病院	精神科	産婦人科	小児科			日本海総合病院(小児科)					
産科婦人科 重点-1	深瀬実加	一外科	朝日町立病院	産婦人科	産婦人科								
番号	氏名	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3

平成23年度・2年次

資料4 後期研修医の動向

H24.1.1 現在

診療科名	人数	内 訳													備 考
		性別		初期研修			出身大学		出 身		研修先				
		男	女	山形大学 医学部 付属病院	県内 他病院	県外 病院	本学	他大学	山形県	その他	大学病院			関連 病院	
											助教	医員	大学院生		
第一内科	29	22	7	15	14		25	4	11	18		11	10	8	
第二内科	19	15	4	13	3	3	15	4	12	7		7	1	11	
第三内科	7	6	1	6		1	6	1	4	3		5		2	
精神科	9	8	1	8	1		9	0	2	7		4		5	
小児科	14	9	5	10	3	1	14	0	3	11		4	2	8	※2名休職中 (1名育休・人数 には含めない)
第一外科	6	5	1	5	1		6	0	4	2		2		4	
第二外科	10	10	0	9	1		10	0	4	6	4	2		4	
脳神経外科	7	7	0	6		1	7	0	6	1	2	1		4	
整形外科	16	14	2	6	9	1	14	2	3	13		6		10	
皮膚科	3	1	2	2		1	2	1	0	3		3			
泌尿器科	7	5	2	3	3	1	7	0	2	5	1	2		4	
眼科	14	6	8	11	3		13	1	5	9	5	7		2	
耳鼻咽喉科	8	6	2	3	4	1	8	0	3	5		4		4	
放射線診断科	10	6	4	5	4	1	10	0	4	6	3	4		3	
放射線治療科	9	5	4	2	5	2	8	1	2	7	4	4		1	
産婦人科	11	4	7	5	4	2	8	3	4	7		6		5	
麻酔科	10	2	8	4	5	1	7	3	5	5	2	7		1	
歯科口腔外科・ 形成外科(形成)	2	0	2	2			2	0	1	1		2			
病理部	1	1	0	1			1	0	1			1			
救急医学	2	0	2	2			2	0	0	2	2				
計	194	132	62	118	60	16	174	20	76	118	23	83	13	76	

山形大学蔵王協議会会則

(名称)

第1条 本会を山形大学蔵王協議会と称する。

(目的)

第2条 本会は、会員相互の緊密な連携と協力により山形大学並びに関連医療施設の医学・医療の充実と発展を図り、人材養成と地域医療の向上に寄与することを目的とする。

(事業)

第3条 本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 卒後臨床研修体制の整備等に関すること。
- (2) 関連医療施設との連携に関すること。
- (3) 山形大学地域医療医師適正配置委員会との連携に関すること。
- (4) 地域の医師の適切な配置に関すること。
- (5) その他、前条の目的を達成するために必要な事業

(会員)

第4条 本会の会員は、山形大学医学部教授会、山形大学関連病院会及び山形大学医学部教室員会の構成員並びに山形県健康福祉部及び山形県医師会の代表より成る。

(事務局)

第5条 本会の事務局を山形大学医学部教室員会内に置く。

(役員)

第6条 本会に次の役員を置く。

- (1) 会長 1人
- (2) 副会長 3人
- (3) 顧問 2人
- (4) 運営委員 7人
- (5) 監事 2人
- (6) 事務局代表 2人
- (7) 会計 2人

(職務・選任)

第7条 会長は会を代表し、会務を総理する。副会長は会長を補佐し、会長に事故ある時は、その職務を代行する。会長及び副会長は、前条第3号から第7号までの役員及び第10条の委員を選任する。

2 原則として、会長は山形大学医学部長が、副会長は山形大学医学部附属病院院長及び山形大学関連病院会会長がその任に就く。ただし、山形大学医学部長が会長の任に就かない場合は、副会長の任に就くこととする。

3 顧問は、山形県健康福祉部代表1人、山形県医師会代表1人とする。

4 運営委員は、医学部教授会構成員3名、関連病院会構成員3名とし、教室員会会長を加える。

5 監事は、医学部教授会構成員1名、関連病院会構成員1名とする。

6 事務局代表は、原則として医学部教授会構成員1名、教室員会副会長1名とする。

7 会計は、医学部教授会構成員1名、教室員会書記長とする。

(任期)

第8条 役員は任期は1年とし、再任を妨げない。

(運営委員会)

第9条 本会の運営等を円滑に行うため、運営委員会を置く。運営委員会は、第6条の役員と次条の各部会の部長3名によって構成する。

2 運営委員会は、総会議案の協議、部会への事業の委任、調整等をはじめ会の実質的な運営に当たる。急を要する事項については総会に代わって協議処理できるものとする。(部会)

第10条 本会の目的達成のため次の部会を置く。

(1) 関連医療施設部会

(2) 研修部会

(3) 企画・広報部会

2 各部会の委員は、会長が副会長と合議の上、指名するものとする。

3 各部会の部長及び副会長は委員の互選によって選出する。

4 各部会の部長、副部長及び委員の任期は1年とし、再任を妨げない。

5 委員の構成については別に定める。

(総会)

第11条 総会は原則として年1回会長が招集する。会長はほかに必要ある場合、運営委員会に諮り臨時の総会を招集することができる。

2 総会は、第4条の会員の出席により成立し、本会の目的を達成するための協議機関とする。

3 総会の議題は運営委員会で協議し、総会前に会員に通知する。

4 総会の議長は会長をもって充てる。

(会計)

第12条 本会の運営に必要な経費は、会費及びその他の収入をもってこれに当てる。

2 会費については別に定める。

3 運営委員会は、年度毎の予算決算について総会に報告し承認を受けるものとする。

(会則の変更)

第13条 会則の変更は、運営委員会の議を経た後、総会出席者の過半数の賛成を得て行うものとする。

附則

この会則は、平成14年8月8日から施行する。

附則

この改正会則は、平成15年3月29日から施行する。

附則

この改正規則は、平成17年7月20日から施行する。

附則

この改正規則は、平成18年12月5日から施行する。

附則

この改正規則は、平成22年4月1日から施行する。

山形大学蔵王協議会部会規程

(趣旨)

第1条 山形大学蔵王協議会会則第10条第5項の規定に基づき、部会の構成を定める。

2 会長が必要と認めるときは、構成員以外の者を委員に加えることができる。

(関連医療施設部会)

第2条 関連医療施設部会は、山形大学と関連医療施設との連携について協議し、次の委員をもって構成する。

- (1) 医学部教授会構成員 3人
- (2) 関連病院会構成員 3人
- (3) 医学部教室員会構成員 1人
- (4) 初期研修医 2人

(研修部会)

第3条 研修部会は、初期2年間の研修体制等について協議し、次の委員をもって構成する。

- (1) 医学部教授会構成員 3人
- (2) 関連病院会構成員 4人
- (3) 医学部教室員会構成員 1人
- (4) 医学部学生 5人

(企画・広報部会)

第4条 企画・広報部会は、山形大学蔵王協議会が実施する事業の企画、広報等について協議し、次の委員をもって構成する。

- (1) 医学部教授会構成員 3人
- (2) 関連病院会構成員 3人
- (3) 医学部教室員会構成員 1人
- (4) 初期研修医 2人

(5) 医学部学生 3人

附則

この会則は、平成14年8月8日から施行する。

附則

この改正会則は、平成15年3月29日から施行する。

附則

この改正会則は、平成21年3月17日から施行する。

山形大学蔵王協議会会費規程

第1条 山形大学蔵王協議会会則第12条第2項の規定に基づき、各構成員の年会費を次のとおり定める。

- (1) 山形大学医学部教授会 100,000円
- (2) 関連病院会 17,500円に加盟病院数を乗じた額
- (3) 山形大学医学部教室員会 200,000円

附則

この会則は、平成14年8月8日から施行する。

山形大学関連病院会会則

(構成・名称)

第1条 本会は、山形大学に関連する医療施設を会員として構成し、山形大学関連病院会と称する。

(目的)

第2条 本会は、会員相互の親睦、研修を図るとともに、山形大学蔵王協議会と密接な連携を取りながら卒後臨床研修及び地域医療の充実を寄与することを目的とする。

2 本会は、山形大学蔵王協議会に加盟するものとする。

(資格)

第3条 本会会員は、前条の目的に賛同し入会した者とする。

(入会)

第4条 会員になろうとする者は、所定事項を記入した入会申込書(別紙様式1)を会長に提出し、会長の承認を受けなければならない。

(事務所)

第5条 本会は、事務所を山形大学蔵王協議会事務局内に置く。

(役員)

第6条 本会に次の役員を置く。

- (1) 会長 1人
- (2) 副会長 1又は2人
- (2) 評議員 若干人
- (4) 監事 2人

2 会長は、総会で会員の中から選出する。副会長及び評議員は、会員の中から会長が委嘱する。

4 監事は、総会で選出する。

5 役員は任期は2年とし、再任を妨げない。

(総会)

第7条 総会は、定例総会及び臨時総会とする。2 定例総会は、年1回会長が招集する。

3 臨時総会は、必要に応じて会長が招集する。

(経費)

第8条 本会の運営に要する経費は、会費及びその他の収入をもって充てる。

2 本会の会計年度は、4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

(退会)

第9条 会員が退会しようとするときは、理由を付し退会届(別紙様式2)を会長に提出しなければならない。

附則

この会則は、平成14年8月8日から施行する。

附則

この改正会則は、平成19年3月8日から施行する。

山形大学関連病院会加盟病院一覽

No.	病院名	病院長名	No.	病院名	病院長名
国立	1 国立病院機構山形病院	圓谷 建治	42	二本松会上山病院	江口 拓也
	2 国立病院機構米沢病院	飛田 宗重	43	山形さくら町病院	横川 弘明
県立	3 山形県立河北病院	菊地 惇	44	舟山病院	鬼満 圭一
	4 山形県立総合療育訓練センター	井田 英雄	45	みゆき会病院	加藤 修一
	5 山形県立新庄病院	鈴木 知信	46	山形済生病院	濱崎 允
	6 山形県立鶴岡病院	灘岡 壽英	47	山形厚生病院	鈴木 健二
	7 山形県立中央病院	小田 隆晴	48	矢吹病院	矢吹 清隆
	8 寒河江市立病院	布施 明	49	横山病院	横山 幸生
	9 鶴岡市立荘内病院	三科 武	50	丹心会 吉岡病院	吉岡 信弥
市立	10 天童市民病院	松本 修	51	公德会 若宮病院	長谷川朝穂
	11 山形市立病院済生館	平川 秀紀	52	明石医院	伊藤 義彦
	12 米沢市立病院	芦川 紘一	53	大島医院	安達 真人
	13 酒田市立八幡病院	土井 和博	54	電興診療所	飯田 俊也
	14 朝日町立病院	小林 達	55	木根測医院	木根測清志
	15 小国町立病院	阿部 吉弘	56	健生ふれあいクリニック	本間 卓
	16 町立金山診療所	山科 明夫	57	原田香曾我部医院	香曾我部謙志
	17 白鷹町立病院	高橋一二三	58	白田医院	白田 一誠
	18 公立高島病院	八巻 通安	59	楯岡鈴木内科医院	鈴木 康洋
	19 西川町立病院	須貝 昌博	60	長岡医院	長岡 迪生
	20 町立真室川病院	室岡久爾夫	61	南陽鈴木内科医院	鈴木 紘治
町立	21 最上町立最上病院	佐藤 俊浩	62	医療法人山形クリニック	安達 雅史
	22 公立置賜総合病院	新澤 陽英	63	吉川記念病院	吉川 順
	23 公立置賜南陽病院	原田 正夫	64	庄内余目病院	野末 睦
	24 公立置賜長井病院	松橋 昭夫	65	(医)伍光会 北村山在宅診療所	肌附 英幸
	25 北村山公立病院	木内 博之	66	岩手県立千厩病院	伊藤 達朗
	26 日本海総合病院	栗谷 義樹	67	石巻赤十字病院	飯沼 一字
	27 酒田医療センター	田宮 和朗	68	泉整形外科病院	根本 忠信
	28 秋野病院	木下 修身	69	仙台社会保険病院	田熊 淑男
	29 尾花沢病院	渋谷 磯夫	70	仙台徳洲会病院	福地 満正
	30 小原病院	小原 正久	71	みやぎ県南中核病院	内藤 広郎
	公立	31 小白川至誠堂病院	大江 正敏	72	会津西病院
32 佐藤病院		沼田由紀夫	73	大町病院	猪又 義光
33 三友堂病院		仁科 盛之	74	太田西ノ内病院	堀江 孝至
34 三友堂リハビリセンター		穂坂 雅之	75	呉羽総合病院	窪田 幸男
35 至誠堂総合病院		高橋 敬治	76	坪井病院	岩波 洋
36 篠田総合病院		篠田 昭男	77	鳴瀬病院	鳴瀬 淑
37 新庄明和病院		佐藤 明	78	枅記念病院	太田 守
38 千歳篠田病院		吉田 邦夫	79	池田脳神経外科病院	池田俊一郎
39 天童温泉篠田病院		大田 政廣	80	埼玉県立循環器・呼吸器病センター	城下 博夫
40 鶴岡協立病院		堀内 隆三	81	埼玉協同病院	高石 光雄
県内		41 東北中央病院	田中 靖久	82	木戸病院
	42	43	83	立川総合病院	岡部 正明

山形大学蔵王協議会役員一覽

役職名	教授会	関連病院会	教室員会
会長	国立がん研究センター 理事長 嘉山 孝正		
副会長	医学部長 山下 英俊 附属病院長 久保田 功	公立置賜 新澤 陽英	
顧問	(山形県医師会長 有海 躬行)	(山形県健康福祉部長 深澤 良光)	
運営委員	放射線診断科 細矢 貴亮 第一外科 木村 理 泌尿器科 富田 善彦	県立河北 菊地 惇 日本海総合 栗谷 義樹 米沢市立 芦川 紘一	会長 木村 青史
監事	腫瘍内科 吉岡 孝志	東北中央 田中 靖久	
事務局代表	公衆衛生 深尾 彰	(医学部総務課)	副会長 未定
会計	解剖学第二 後藤 薫		書記長 大泉 弘幸 (医学部総務課)

部会名	教授会	関連病院会	教室員会	その他の機関
関連医療施設部会	◎小児科 早坂 清 産婦人科 倉智 博久 第二外科 貞弘 光章	○県立中央 小田 隆晴 済生館 平川 秀紀 山形済生 濱崎 允 県立河北 菊地 惇 小国町立 阿部 吉弘 最上町立 佐藤 俊浩 市立八幡 土井 和博	管理運営部長 未定	山形県健康福祉部長 深澤 良光 山形県病院事業局長 仁科 義英 (初期研修医) 福原 宏樹 須貝 彩子
研修部会	◎第三内科 加藤 文夫 精神科 大谷 浩一	○国病山形 圓谷 建治 県立新庄 鈴木 知信 市立荘内 三科 武 三友堂 仁科 盛之	教育問題部長 未定	(平成20年入) 榎本 愛美 作山 美郷 中田 翔
企画・広報部会	◎放射線治療科 根本 建二 皮膚科 鈴木 民夫 麻酔科 川前 金幸	国病米沢 飛田 宗重 ○日本海総合 栗谷 義樹 篠田総合 篠田 昭男	広報部長 川勝 忍	(初期研修医) 福原 宏樹 須貝 彩子 (平成20年入) 榎本 愛美 作山 美郷 中田 翔

編集責任者 川前金幸 (麻醉科学講座)

(注: ◎印は部長、○印は副部長)